



整腸剤について



腸内細菌、プロバイオティクス食品など腸内環境に関する話題が多く聞かれます。今回は、腸内に作用する「整腸剤」についてお話しします。整腸剤とは、腸内環境を整えて便秘や下痢症状、腹部膨満感を改善する薬です。乳酸菌などを含むものは腸内細菌のバランスを整え、また腸内フローラのバランスも整えます。
* 腸内フローラとは、腸内に棲んでいる細菌が菌種ごとに並んでお花畑のようになっていることが由来しています。

菌種	特徴	主な薬剤
ビフィズス菌製剤	小腸下部～大腸で増殖 乳酸・酢酸を産生して有害な菌を抑制	・ Bioフェルミン錠・酸 ・ ラックビー微粒N など
酪酸菌製剤	胃酸に安定、抗菌剤に安定 酪酸・酢酸を生成して有害な菌を抑制	・ ミヤBM錠／細粒
酪酸菌配合剤	ラクトミン、酪酸菌、糖化菌が入っており3成分の相乗効果を発揮 抗生剤と併用	・ ビオスリー配合錠・OD錠 ・ ビオスリー配合酸
ラクトミン製剤	小腸下部～大腸で増殖し乳酸を産生	・ Bioフェルミン配合散 ・ ラクトミン剤
ビフィズス菌配合剤	ビフィズス菌+ラクトミンの配合剤	・ レベニンS配合錠・散
抗菌薬耐性乳酸菌製剤	抗生物質を服用する時に併用されます	・ BioフェルミンR錠・散 ・ ラックビーR散 ・ レベニン錠・散

上記は個人によって効果が異なるため、使用する薬の選択は明確ではありません。市販薬はいろいろな菌が配合されているものが多く、種類もたくさんあります。
参考：薬剤師専門サイト ファーマシスタ <https://pharmacista.jp/>
(薬剤科長：佐藤 ゆかり)

編集後記

暑い日が続いており、毎日ぐったりしますが、子どもの保育園の夏野菜は元気に実っています。息子は食卓にきゅうりを出すと「保育園でお世話しているよ」と話すのですが、食べたい気持ちにはまだならないようです・・・。
(地域医療連携室：河村 智美)



【発行元】
仙台東脳神経外科病院

〒983-0821
宮城県仙台市宮城野区岩切1丁目12番1号
Tel : 022-255-7117 (代表) Fax : 022-255-7760



ホームページは
こちらから

【関連病院】
仙台リハビリテーション病院

〒981-3341
宮城県富谷市成田1丁目3番1号
Tel : 022-351-8118 (代表) Fax : 022-351-8126

仙台東脳外だより

編集：仙台東脳神経外科病院 地域医療連携室 / 発行：2024年7月

ご自由にお持ちください

- ・ 特集記事 **アテローム血栓性脳梗塞（その2）**
- ・ 院内トピックス **脳神経外科部長の渡部医師が地域医療セミナーで講演しました！**
- ・ 栄養室より **減塩献立レシピ「鮭の柚庵焼き」**
- ・ おくすりコラム **整腸剤について**



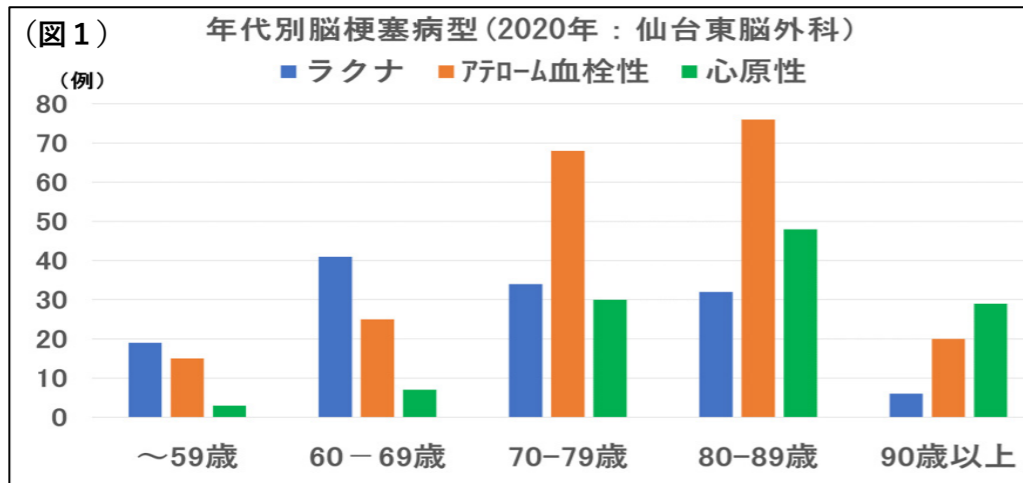
新MR装置完成 (2024.07.01)

2006年に導入したMR装置（SIEMENS社製）更新のため、4月26日夕方から撤去作業を始め、6月8日から新しいMR装置（GE社製）の搬入が始まりました。上の写真は那时的搬入の様子です。まず病院駐車場にクレーンでマグネット本体（約5.7トン）を下ろし、その後ローラーに載せて少しずつ移動をして7～8時間をかけて部屋の中に収めました。そして壁を全て塞いでからいよいよ装置の組み立てが始まり、6月19日に磁場を立ち上げることが出来ました。残りの組み立てと調整を終え、7月8日より新しいMR装置で検査を行っています。検査時間は最大で従来の半分程度で済み、より高画質な画像を撮ることができます。新しいMR装置の性能を活かし、脳神経・脊椎脊髄疾患の診療に貢献してまいります。

放射線室主任 診療放射線技師 小林 忠司

アテローム血栓性脳梗塞（その2） ～原因、予防、治療～

このグラフは、脳梗塞病型毎の入院患者数を年代別に示したものです（図1）。

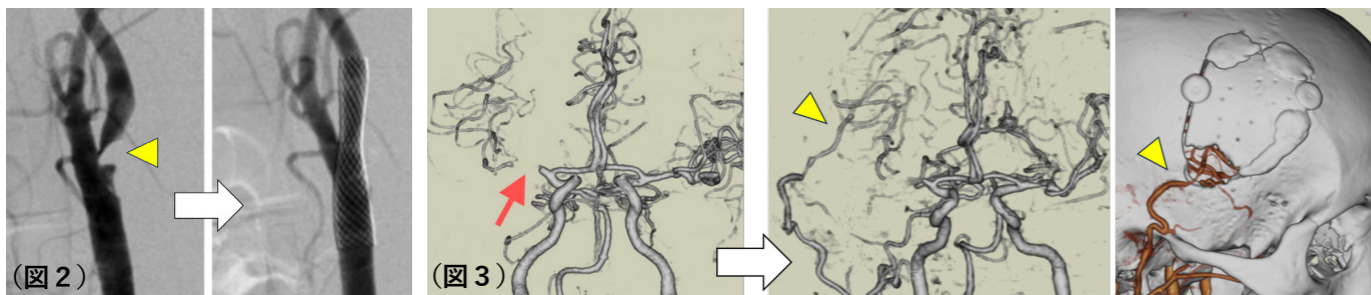


50歳代、60歳代ではラクナ梗塞が最多です。高血圧が一番の危険因子です。

70歳代、80歳代では、アテローム血栓性脳梗塞が最多となります。糖尿病などの生活習慣病・喫煙・加齢が危険因子とされています。この年代では全身の動脈硬化が進行するため、脳梗塞以外に心疾患（狭心症、心筋梗塞）、下肢動脈閉塞症などのリスクも高まります。「人間は血管とともに老いる」と言われます。動脈硬化予防はもっと若い年代から始めないと効果は期待できません。動脈硬化の進行した状態では、若い人達と同じ生活習慣病管理、特に厳格な高血圧管理はリスクも伴います。機会があれば、頭部MRIで主幹動脈の狭窄の評価や、頸動脈超音波検査などで動脈硬化を評価しておくのも良いかと思えます。動脈硬化による致命的な病気の「前触れ」、脳梗塞では「一過性脳虚血発作」などを放置しないことも重要です。

90歳代では、心原性脳塞栓症が最多です。最大の原因である心房細動は加齢に伴い増加するためです。アテローム血栓性脳梗塞は90歳代では減少しています。動脈硬化の強い人は「90歳までに淘汰される」との説もあります。

アテローム血栓性脳梗塞の急性期治療は、抗血小板剤を主体とした薬物治療・高気圧酸素治療・リハビリが行われます。基本的に降圧はせず、脱水を避け十分な補液を行います。脳梗塞が進行する例も少なからずあり、抗血小板剤の2剤併用（1ヶ月以内）も有効とされています。



急性期治療終了後、頭蓋内外の主幹動脈狭窄・閉塞例では、再発予防目的に血行再建術の適応となる症例もあります。

(図2) 左頸部内頸動脈高度狭窄例⇒頸動脈ステント（CAS）治療。

(図3) 右中大脳動脈閉塞例⇒バイパス（右浅側頭動脈-中大脳動脈吻合）手術。

(脳神経外科部長：渡部 憲昭)

院内トピックス

渡部医師 地域医療セミナー講演

2024年6月22日（土）、TKPガーデンシティ仙台にてベネッセスタイルケア様主催の「ベネッセの地域医療セミナー」が開催され、当院脳神経外科部長の渡部憲昭医師が講演しました。「脳卒中を知る～ご自身と大切な人のために～」というテーマで、一般の方向けに脳卒中について正しい理解ができるよう原因や症状、治療、予防法などを説明し、また年代によって罹患しやすい脳梗塞のタイプが異なることなどについてお話をさせていただきました。

当日は100名を超える方々のご出席があり、皆様の脳卒中に対する関心の高さを窺い知ることができました。今後も、当院は脳神経・脊椎脊髄の専門病院として地域医療に貢献出来るよう努めてまいります。



脳神経外科部長 渡部憲昭医師

栄養室より

減塩献立「鮭の柚庵焼き」

材料（1人分）
 鮭……………1切（80g）
 しょうゆ……………小さじ1弱（5g）
 酒……………小さじ1（5g）
 みりん……………小さじ1/2（3g）
 ※ゆず果皮……………3g
 いんげん……………1本（10g）
 めんつゆ……………少々
 ※乾燥ゆずで代用可

ゆず等の柑橘系の香りを利用すると、薄味でも美味しく食べられます。また、鮭にはn-3系脂肪酸のDHAやEPAが豊富に含まれており、動脈硬化の予防効果があります。
 (管理栄養士：矢野 香代子)

栄養量（1人分）
 エネルギー132kcal/蛋白質18.4g/脂質3.3g/塩分1.0g

◆作り方◆

- ①ゆずの皮は刻んでおく。
- ②鮭にしょうゆ、酒、みりん、ゆずの皮を漬け込む。
- ③漬けた鮭をグリルで焼き、火が通ったら皿に盛りつける。
- ④茹でたいんげんにめんつゆで味付け、鮭に添える。

